

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

事業所名: グループホーム ひかり長屋

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	" 尊厳と自立 " を目標に掲げ、入居者全員がその人らしく安心して生活が出来るよう支援している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が常に理念を念頭に置き、入居者の人格を尊重し、自覚をもって接するように努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域推進会議の実施、内容は近況報告、当面の問題点、今後の課題など、行政からの参加、地域の民生委員の意見家族代表の方にも参加していただき、事業所として理解を深めるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の日課として散歩をしている。途中農作業中の近隣の方々と挨拶を交わしたり、畑に立ち寄り気軽に話が出来、時には農産物を頂く事もある。また、2丁目まで出向き2丁目入居者と共に歌なども唄う。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同市内の小中学生の体験学習の受け入れ、こちらからの訪問又、近隣の保育園の運動会に招待を受け、参加をしている。	○ 今後も継続して参加していきたい。

事業所名: グループホーム ひかり長屋

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	○	老人クラブへの参加が出来ることを望んでいる。一緒にゲートボールを楽しみ、お互いに理解を深める。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○	ホーム内での会議に限らず、他施設の見学や研修等も実施していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		

事業所名: グループホーム ひかり長屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族にホームにきていただき、本人を交え、時間をかけて十分に話し合いをし、納得をしていただくまで説明を行っている。 (2人以上で対応をしている)		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に筆記用具を置き常に意見や苦情の申し出がしやすいような体制をとっている。職員からも利用者からの不満、意見に対し十分に聞き取ることが出来るよう、些細な事にも目を向ける事を日常的に話し合っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態については優先的に報告をしている。職員の移動については入居者の面会時に報告をしている。金銭の管理については利用料の請求時に1カ月にかかった金額について明細を添付し、送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所としての相談員の配置、併設事業所の窓口においての苦情の受付をしており、その都度、対応し反映させている。	○	定期的にアンケート用紙を家族宛に配布し、きめ細かな意見を聞き、今後の課題としていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者及び各事業所代表職員による2ヶ月に一回の運営会議などを通じ、運営者、管理者、職員代表が提案やいけん、要望などの検討、話し合いを行い、その結果を日常業務に反映している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	運営規定に示されている人員の確保は出来ているが、ユニット内での調整が難しく、事業所全体として調整を図っている。 入居者に対して生活に支障が出るようなことはない。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	急な離職による対応として運営者と早急な話し合いを持ち、職員の補充を考え、利用者へのサービスの低下を防止するよう配慮をしている。		

事業所名: グループホーム ひかり長屋

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

事業所名: グループホーム ひかり長屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族での介護が困難であるのか、何が問題なのか、家族の意向、本人の意思はどうなのか・・・など、インフォーマル、地域性、医療面からの支援を含め、十分に時間をかけて話し合いを持つように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況に応じ、家族の方に付き添っていただく、家で使用していた馴染みのものを居室に置くなどしながら、声かけを多くし、時間を共有して、不安感をなくすよう、配慮をしている。	○	慣れるのを目的として日中のみの利用を試す、一日数時間のみの利用が出来ないかを検討していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護をしているという態度は取らず、入居者との共通の話題を探す、表情から察する能力を養い、喜怒哀楽の表現を共に支える努力をしている。入居者より話題の提供を頂き(戦争経験談など)考え、学んだりしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	一方的な態度は示さず、両立した態度を示し、お互いの想いが近づくよう努めている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人や家族からの感謝の言葉や喜びなど、気が付かなかった生活面での支援を基調とし、それを職員の励みや、より良好な関係が築けるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が急に思い出して何処かに行って見たい、友達と会いたいなどと訴えた場合、可能な限りそれが現実となるよう十分に配慮している。また、ホーム自体が閉鎖的にならずいつでも面会できる体制を整えている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	声掛けをし、入居者同士の架け橋になり孤立することなく関る事に努めている。		

事業所名: グループホーム ひかり長屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院加療が必要のため、長期入院をされた利用者においても経過や今後の事について相談を受けたりアドバイスをしたりする関係は続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動や言動面からも日々の生活に生きがいと希望があるものとなるよう一人一人の思いを大切に本人の意向を聞き、共に動くように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	4室が和室対応になっており、畳の生活環境に慣れてる方に配慮されている。居室には、鏡台など馴染みのものを置いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	無理に行動させることなく、状況を観察すること、その人に合った過ごし方が出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回ユニット会議を開き、その方に合った介護計画を話し合い、関連して医療面、家族の意見、意向を取り入れながら短期目標、どのような支援が必要なのかを具体的にプランとして作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その場に応じた対応をとるべく、家族、主治医と密接に連絡を取り相談をしながらその方の生活が維持可能になる様努めている。		

事業所名: グループホーム ひかり長屋

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護日誌、入居者個人の記録は毎日記入しており、内容は一日の流れ、個人記録についてはその方の生活の様子、食事、睡眠、排泄の状況など細かく記載されている。</p> <p>月末に全員の入居者のモニタリングを行っている。</p>	○	記録の仕方: 家族への開示を目的とし、面会時に見ていただくことにより、その方の生活の様子をより詳しくして頂きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	併設している事業所の大型の車を借り、全員でドライブや外出に出かけ、社会との繋がりを持ち、入居者の楽しみにもなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	日本舞踊、フラダンス、ハーモニカ演奏、ビデオ鑑賞などのボランティアを受け入れており、消防においては小、中学生の消防隊が来訪し、ホールに集合して和気藹々と時間を共有し楽しんでいる。		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	入居者の重度化に伴い、グループホームでの生活が困難と思われる方には、本人、ご家族と話し合いを重ね、その希望を取り入れながら他のマネージャー、相談員との関りを持ち、今後の対応を考え、支援を行っている。		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	地域推進会議に市の地域包括センターからの出席がなされており、地域における現状、制度、その他総合的な問題について話し合いをもっている。		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	入居者全員の主治医を把握し、緊急時や必要に応じて、主治医の指示を仰いでいる。		

事業所名: グループホーム ひかり長屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の進行に伴い、主治医、家族と相談をしながら、必要に応じ、専門医に受診することを勧めたり、相談を受けたりしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に一回併設事業所からの看護師による健康管理が行われている。個別にも相談、管理がなされ、対応をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医と定期的に状態についての確認、話し合いをする。こちらから病院に出向き、直接本人や看護師からの情報収集に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一名の方については家族が当ホームでのターミナルケアを望まれており、家族、主治医、職員が話し合いを重ね、その場においての対応を検討、確認している。そのことに対する家族からの承諾書(確認書)も交わされている。	○	今後もこのようなケースがあれば検討していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化は序々に進んでおり、医療面での対応、家族の意向をふまえながら特養転居などを視野にいれ、話し合い、検討を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから特養に移るケースも見られるが利用者にとって生活の場が変わることへの不安を重点に考え、家族の意見など組入れ、十分に話し合いを行っている。		

事業所名: グループホーム ひかり長屋

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室を訪ねる際の本人への承諾、名前の呼び方、目上の人に対する言葉遣いなど、又職員が発するさりげない会話にもお互いが気づいたことについては注意をしようように心がけている。記録ノートに関しては入居者の共有スペースには置かないようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の言動や行動は決して否定することなく、わかり易い言葉で説明をし、自己決定を重視した支援を心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度は一日のスケジュールは決められてはいるが、参加、不参加は本人の意思によるもので強制したりすることはない。 本人らしく行動することを優先し、支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	現在では移動美容室の来訪により理容、整容が行われているが、髪形やカラーに関しては本人の意思、意向を尊重している	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、後片付けなどを率先して行い参加することへの満足感、きれいに片付けた事への達成感を味わってもらっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	二名の方が、焼酎、ワインを晩酌されている。焼酎の方は本人・家族との話し合いの上、週二回(水・日)飲酒されている。ワインの方は家族が持参される銘柄ワインをコップ半量弱を毎晩飲酒されています。	

事業所名: グループホーム ひかり長屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	なるべく紙パンツの使用を減らし、その方の排泄パターンを把握し、誘導をするように心がけ、支援をしている。	○	一人の方は排泄パターンを把握し、毎食後、水分補給後にトイレ誘導を行った結果、紙パンツの使用を中止する事ができました。今後も継続し排泄の自立の支援を行って行きます。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大体一日おきである。本人の希望を優先し、気が向かなかつたり身体状況に合わせて入浴をしている。入浴にかかる時間もそれぞれである。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣において個々にずれはあるものの、居室、コタツ、ソファにて午睡できるよう確保されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭先に出て草花を摘んだり、編み物、折り紙、読書とそれぞれ楽しみを見出し、本人の意に沿った生活が出来るよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の為の日用品、自由に使えるお金は家族からホームで預かり、管理をしている。ある方は、買いたい物をメモし、職員と共に店に出向き購入されている。	○	職員が買い物に行く際、どうしても限られた入居者になってしまう。入居者全員が楽しみを味わうことが可能になるようになるべく多くの入居者に対応することを考慮していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課として毎日の散歩は30分程かけて行っている。又月に一度は外食に出かけ、その後ドライブをして帰園し、春の桜や秋の紅葉を満喫し、楽しみが得られるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	最近では博物館に出かけ、歴史に触れ、弁当の楽しみも味わった。		

事業所名: グループホーム ひかり長屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所して間もない利用者や夕方になると不穏になり家族の声を聞きたいとの要望がある方には職員が電話をし、本人と話が出来、安心する状態を作っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	誰でも自由に面会が出来、居室、居間、コタツの間などで本人を交え、過ごせる空間があり、お茶を飲んだり、食事をしたりしながら過ごしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束が禁止されていることの意味や具体的な事柄について会議などでも議題にし、全職員が活発に意見を出し合い、理解をし、取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、裏口全てに鍵をかける事は無く(夜間は玄関のみ閉める)自由に出入りが可能になっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	散歩時の車の往来、外出時の行動の把握、確認、夜勤者による夜間の2時間おきの見回りは確実に行われており、入居者の安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室の手洗いの洗剤(石鹼類)の配置は異食行為、誤飲などが考えられる場合は撤去している。 ナイフ、はさみ、包丁などは入居者が持ち出せない場所に収納してある。洗剤、漂白剤などについては一箇所に集め、鍵掛かるようになっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止については段差における補助動作、服薬については入居者の能力に応じて見守るなど、職員各自が責任のおける態度で接している。会議の場においても遂行できるよう確認をしている。	○	玄関の他に段差のある箇所が幾つか見られる。事故防止を徹底するため、入居者の生活の安全を保護するため運営者との話し合いを重ね、改善していきたい。

事業所名: グループホーム ひかり長屋

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時に備えての酸素、吸引器、救急箱の常備をしている。 巡回看護師により指導を受け、訓練をしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災管理者を中心に年に1～2回非難方法の訓練をし、日ごろより関心を持ち、併設事業所などにも協力してもらえる様、体制を整えている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	例えば転倒をするリスクがある場合、歩行可能な限りその方のQOLを高めることを優先し、歩いてもらう等それぞれのケースを考え、家族と話し合いをし、決めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化を観察するために毎朝バイタルチェックをし、摂食状況、活気、表情などを含めて判断をする。 異変があった場合は家族、主治医に連絡をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その方に合った服薬状況かどうか、量や時間帯を観察しながら主治医との連携を図りながら支援をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	季節に応じた食べ物、ホームの農園で収穫した野菜を中心に芋類、ねぎ、ほうれん草といった繊維質の多い、便秘の改善に繋がるような食物を摂る様、調理面でも考慮している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前、声掛けを行いながら義歯の洗浄、うがいなど行っている。(義歯は容器に洗浄液に浸す)	○	今後は、毎食後に、声掛けを行いながら義歯の洗浄、うがいなどを行って行きたい。

事業所名: グループホーム ひかり長屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の摂取能力に合わせて配膳の際に調整をしている。主食、副食、水分量の一日の目安を決め摂取量を記録に残し、健康状態の把握に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は、入居者、全職員が受け、ノロウイルスに関しても予防法、嘔吐した際の処理の仕方など看護師を中心に、また保健所からも来てもらい講習を受けている。 処置時のグッズの常備、マニュアルを掲示している。	○	予防の一環として面会者の問題があり、冬期に限り面会の機会を控えていただく、又ホームの入り口にマスク、消毒液の常備をするなどして感染を未然に防ぐ、家族の方に了解を得るため書面にて連絡をいれるなど対策を取る。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理をする職員の手洗いの励行、家事参加をする入居者のエプロンの装着、調理器具の洗浄、滅菌などに留意している。食材については当日か一日前に届くようになっている。必ず賞味期限を確認し、野菜、卵類においても日付を記入するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関からはホーム内の様子が見え易いように障害物を置かないようにし、季節の花を飾るなど工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはコタツを置き、食後、お茶の時間に全員で団欒の場を作る。各ユニットの中心にはホールがあり合同でレクリエーションをしたり、近隣の花屋さんから講師を招き、フラワーアレンジメントを行うなどして入居者の憩いの場所となっている。 トイレの照明、換気扇は自動になっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先には椅子を置き、面会時、見送りに出た際に掛けられるようになっている。又居間にはソファがあり、一人でテレビを観たり、読書をして過ごすスペースになっている。建物の両脇にもスペースが設けてある。		

事業所名: グループホーム ひかり長屋

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していた鏡台などが置かれ家庭での生活が継続できるように配慮しているが、異食や転倒などの原因となる居室には置くことが出来ない。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	食堂、キッチンには換気扇が取り付けられている。冷暖房の調節には気を配り、寒暖の差を大きくしない様、職員が把握し、コントロールしている。冬の季節には湿度の調整にも気を配り、加湿器の使用をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関の段差,廊下の両側、トイレの手摺りが取り付けられており、入居者が移動の際の安心出来る要素となっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、風呂場の場所の表示。表札をつける。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭にテラス用のテーブル、椅子が置いてあり、季節を問わず、陽だまりでお茶を飲んだり、歓談をし、職員や入居者同志のコミュニケーションの場になっている。		

事業所名: グループホーム ひかり長屋

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ★ 農村地域（果樹地帯）であり、季節の花々に囲まれ美しい風景を望む事が出来る。又ホームの周辺は大きな通りに面していないため、交通量が少なく、安心して戸外に出る事ができること（散歩時や不穏時の対応として）。
屋内においてはゆったりとしたスペースがあり、（居間、畳の間、コタツなど）団欒の場を設けることが出来、入居者がそれぞれの生活のペースを守りながらその人らしく生活が出来ている。

入居者が耕作できる畑を所有していること： 季節に合った野菜の収穫が出来、それらを職員と一緒に調理をし、美味しく頂くことができる。入居者が農作業の楽しみや達成感を味わうことが出来る。（種まき、植え付け、水遣り、草取りなど）。